

## 平成26年度 大阪市社会教育委員会議 第4回全体会 議事録

1. 日 時 平成27年3月10日(火) 午後3時から5時

2. 場 所 大阪市立阿倍野市民学習センター 講堂

3. 出席者

(委員)

岩槻委員・久委員・木原委員・笹川委員・立田委員、長谷部委員・平井委員

弘本委員・宮田委員・森下委員・八幡委員・山野委員・吉岡委員

(教育委員会事務局)

寶田教育次長・森本生涯学習部長、濱崎生涯学習担当課長、藏田社会教育施設担当課長、唐澤区役所人権生涯学習主管課長会幹事長、大上経済戦略局文化部文化課長、谷口こども青少年局青少年課長

4. 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席委員職員紹介

(4) 議案

・意見具申(最終案)について

・今後のスケジュールについて

(5) 報告

・「生涯学習大阪計画」プロジェクト会議について

・平成27年度 指定都市社会教育委員連絡協議会 開催要項および協議題一覧について

・その他

5. 主な意見等について

意見具申(最終案)について、意見交換を実施した。

・タイトルにもう少し工夫を加える。「施策の評価とエビデンスに基づいた展開」など。

・図書館の記述追記を。図書館は身近な場にあり、徒歩15分以内の圏内にある学習施設。大阪市の図書館のネットワークの充実を図らないと、意見具申のすべてが絵空事になってしまう。

・3層構造のモデル図の修正を。1つ目のステップ「きく生涯学習」について、「よみ・かき」といった表現の追記が必要。そうでないと表現する部分がなく、いきなり社会参加などを「する生涯学習」に飛んでしまう。

・イメージ図がピラミッド型でいいのか。量的に上の段階に行くにつれて人数が少なくな

っていくことになるが、文章ではそのような趣旨でうたわれているわけではないので、必ずしも三角形でなくても良い。

- 数が減っていくというようにとらえずに、何かをつくるという背景には大きな土壌やキャパシティがいて考えれば、三角形でもよい。「耕す」という意味では下が広い方が土壌というようにも読み取れる。
- サイクルなどの円型にしていくのもありでは。「耕す」「かかわる」「つくる」のワードにしておいて、「よみ・かき・はなす」といった内容をかっこ書きの中に入れていくイメージはどうか。
- 生涯学習が「うける」ことからはじまるのが定石なのか。やりなおしはできるし、活動しながら学ぶ人もたくさんいる。その点ではサイクル型にするはどこからでも入れる。その方が一方向性でなくいいのではないかと。
- 文部科学省でも「子どもの貧困大綱」が作成されている。もう少し貧困に関して文書を追記すべき。また子どもの貧困に対応していくのに、図書館機能の充実だけではなく、もう少し盛り込めないか。
- アウトリーチの項があるが、この文章ではアウトリーチは労働や福祉分野がやっているように読めてしまう。家庭教育ではアウトリーチを進めており、教育行政でもやっぺいこうという方向性なので、書き方の変更が必要である。
- 格差が拡大する昨今、学習機会は本を読む学習だけではなく、体験やコミュニケーション、関係性構築だとか、もう少し書き込むべき。
- 視点の5点目が突然「既存の手法からの転換」になっているが、意見具申全体として市民の力を向上して、市民自身が行政や企業やNPOなどの支援を受けながら問題解決につながる力を作りだしていく視点が必要だと思っている。
- 「市民自身が行政や地域の人々と協力しながら問題解決に向かうことが大事になってくる、その上で、その方法として、既存の手法にとらわれず、関わっていくことが大事」という流れが必要では。問題解決を市民自身がしていくというのが抜けているような気がする。
- 「つくる生涯学習」のあとに本来なら、多様な社会問題を解決していく力を得ることによって「社会自身を作りだしていく生涯学習」という視点も必要である。  
行政の予算が減っていく中、ソーシャルインパクトボンドとか、コレクティブインパクトとか市民の総合的な力を合わせて社会を変えていく手法が出てきているので、そういう手法を入れてもらえたら。
- 企業の社会的貢献という言葉がない。「企業も社会的貢献の立場からこうした地域づくりに関わっていくことが求められている」といった文章を入れていただければ。  
行政だけでは、これからのまちづくりを進めていくことは到底できないので、市民が積極的に社会参加して、まちづくりを進めていくという視点が意見具申全体に入っていればいい。

- ・ 5つの視点の項目の順番について、後述の施策の基本的方向とあわせるなら、個人の生涯学習の保障と市民力の育成を打ち出して、そのあと社会的につながりの場づくりにつなげていく、その先にあるのが、市民自身が社会の問題解決を行っていくというところまで持っていく必要がある。まず個人の生涯学習の保障があって、その生涯学習活動を通じて市民が社会を作っていくという流れが良いのでは。
  - ・ これからの時代はガバメントからガバナンスの時代になり、世の中全体がみんなが関わっていかないといけない時代になっている。そのためのネットワーク力が重要性を増しており、その流れの中で、つながりをどう作っていくのが最も重要である。その中で、あらたな公共を担う人材というのが大切という流れで理解している。
- 5点の視点がでてきた考え方や、この意見具申の流れみたいなものを追記するということが必要では。

- ・ まずは、生涯学習の機会の保障を先に持ってきてもらって、そのあとでネットワークづくりを持ってきて、その先に、ネットワークを何のためにするのか、その目標がしっかり書かれていない気がする。ネットワークが何を目的として機能していくかを書いていないと、ネットワークをつくりただけで終わってしまうのではないか。
- ・ つながりが学習を生み出すということだと思う。
- ・ つながりをつくっていくための主体として、個人が生涯学習の基礎的な力を持たない限り参加できないのでは。生涯学習の基礎的な力を保障する視点であり、その後にはじめてつながりの場に参加できるのでは？社会優先か個人優先か、社会あってこそその個人ではなく、社会を支える個人をつくって、その上での社会づくりではないのか？
- ・ 市民力の育成→つながりというストーリーになっているので、施策の流れとあうのではないか。ネットワークの重要性はおっしゃるとおり。生涯学習のリテラシーとかできていない部分があり、そこはまずおさえないといけないと思っている。
- ・ 地域の方々と一緒に活動していると、すでに力をおもちの方がたくさんいらっしゃる。その方々がうまくつながりをもちえていない現状があって、せっかく人材がいるのに、もったいないという気がしている。

今すでに力をおもちの方々をうまくプラットフォーム的なものでつないでいくことが即効性があるという考え方もある、そういう戦略的な順番でいくとこういう順番もあるのかなとも思うし、人からつみあげていくストーリーもあると思う。

現場で動いている立場からすると、もう少しネットワーキングができていけば、もっといい線いくのになと、そのネットワークの輪が広がっていくことでポテンシャルもアップしていくという考え方もある。

- ・ そこも大切であるが、成人力の基礎調査では、活動する人とならない人の格差というのが顕著になっている。高学歴や海外経験や大企業経験や、退職したゆとりのある人というのは活動する傾向にあるが、そうでない人も実はたくさんいて格差がある。NPOの調査でも、活動している人の4人に1人は大学院卒、大企業経験者など高学歴。それ以外の人々

も社会参加していくことを考えていくと、基礎的な力を培っていけるプラットフォームづくりが重要だし、ネットワークも両方必要。子どもの読書の力をつけて学力向上もしていないといけない。読み書き算数からはじめないといけないと思っている。

- ・生涯学習ルーム事業や学校体育施設開放事業の予算が、地域活動協議会に一括しておろされているため各団体に予算がおりてこなくなっているとの話を聞いた。「地域活動協議会…発展途上というところである」というくだりだが、今後どのように考えていくのか。計画策定の中で、地域活動協議会のことも関係局を交えて横断的に検討してほしい。

- ・貧困から抜け出すためには、学びの機会というのは非常に重要である。こうした取り組みはこれまで人権文化センターや青少年会館が重点化してやってきた。そのあたりが弱体化している今だからこそ、もう一度、大阪市の伝統をふまえながら新たな展開が必要だといった記述がある。かつては地域的問題だったけど、今は、社会全体の問題としての貧困であったり、格差があるわけで、こうした社会的背景を考えると、学びから貧困や格差といった問題を考えるということがますます重要な視点となっているということ、もう少し重点化して盛り込んでどうか。

- ・7頁、防災時の対応が突然出てくるので、「日本語学習や防災学習」と入れてもらいたい。